

『キャリアデザインフォーラム・プロジェクト』実践報告

Practice report of “Career Design Forum Project”

○上岡由季・藤原慎太郎・井篠和之・中間有紀・乾 明紀

○KAMIOKA Yuki, FUZIWARA Shintaro, IZASA Kazuyuki, NAKAMA Yuki, INUI Akinori
立命館大学

Ritsumeikan University

Key words: Career design, Cooperation, Service Learning

目的

本稿は、対人援助の高度専門教育をおこなう研究科に所属する筆者ら大学院生（以下、企画者）が実施した「キャリアデザインフォーラムの開催に向けた実践（【第一期】）の結果、およびその後、自発的に企画した「先輩たちとのダイアログ・パーティー（対人援助フォーラム'12）」（以下、ダイアログ・パーティー、【第二期】）についての報告である。近年、対人援助職においても組織内外での連携、企画力の向上、発信の向上がさらに求められるようになってきている。本プロジェクトは、他者のキャリアデザイン支援の実践の中で企画者自身がキャリア形成に役立つ知識とノウハウを身につけるとともに、自らの力で内外と結びつくことを目的としている。

実践内容

【第1期】「キャリアデザインフォーラム（以下、CDF）プロジェクトチームは、一人ひとりがより善い人生を歩むために『想像力と責任』という言葉を中心にしながら、どのような企画を設定し提供するか（上岡ら、2011）を検討し、2012年1月8日に『『未来ソウゾウ企画』—あしたへつなぐ他者への支援とキャリアデザイナー—」を実施した。企画者は、スーパーバイザー（第5筆者）の支援の下、チームビルディング期（役割設定なし、全員で企画検討）、分業期（リーダーを決定し、広報とプログラムの各タスクを遂行する2チームに組織化）、直前期（フォーラム当日の役割分担と運営準備）の3つの段階を経てフォーラム当日までの企画・運営をおこなった。フォーラムは、参加者のキャリアデザインを支援することを目的に以下の内容で行われた。

1. キャリアデザインシートの作成
2. ワールドカフェ&参加者によるプロジェクト立案
3. ゲストに向けてのプロジェクト提言
4. パネルディスカッション
5. キャリアデザインシートの再作成
6. ファシリテーショングラフィックと映像によるふりかえり

【第2期】「ダイアログ・パーティー」はCDFの実施結果を考察した結果、研究科内部および専門職としてのキャリアを歩んでいる修了生との連携を強めることを目的に、CDFプロジェクトチームの企画者のうち、4名（DPチーム）が自発的に企画を試み2012年6月17日に実施した。第2期は、スーパーバイザーの支援は予算・企画書承認などの最

低限のもので、研究科のOB・OGに協力を仰ぎながら進めた。第2期は組織的な役割分担は行わず、対話方式で企画立案を行った。企画内容は以下の通りである。

1. 臨床心理系・教育系・社会系の3分野の研究科修了生による講演3名（以下、ゲスト）
2. ゲストを含めたダイアログを3回実施

結果と考察

【第1期】企画においては、目標数（100人）を超える参加者があり、「想像力と責任」のテーマを基に社会の未来と自らのキャリアを想像し、具体的なプロジェクトをゲストに提示し双方向的なディスカッションを行った。アンケート集計の満足度も7段階中5.97と高い評価となった。また、企画者は、与えられた役割を単にこなすだけではなく、自身の役割を見出し実行するという自発的行動も見られ、自身の得意分野を伸ばすというキャリア・アップの試みが各自でなされた。しかし、研究科外部との繋がりには出来たものの、研究科内の連携は強化されなかったことや企画者自身にとっては、将来に向けたキャリアを考える機会が構造化されてなかったことが課題として残った。

【第2期】DPチームは、CDFの課題を解決するべく、研究科内の院生、教員、および修了生（校友会）を巻き込み、それらとのミーティングを重ねながら、企画者と参加者の協働で実施された。満足度も4段階評価で3.79と高く、研究科内の院生と修了生とのつながりが生まれた。さらに、ゲストのキャリアを中心に「キャリアパンフレット」として冊子化した。これは今後の院生のキャリアデザインの一助となると期待される。

企画者は、第1期の「援助付きのプロジェクト活動」を経て、第2期では、前期のプロジェクト経験を活かして、他者を巻き込み、よりアクティブに他者からの援助を引き出し、自ら支援される環境（協力体制）を創りながら、プロジェクトを完遂した。このように、2期に渡って参加した企画者は、本実践を通じて、自らのキャリア形成や対人援助を実現するための被援助環境を構築する方法を習得したといえる。

引用文献

上岡ら（2011）『キャリアデザインフォーラム・プロジェクト中間報告』日本対人援助学会第三回大会，ポスターセッション，立命館大学，京都市